



## 編集後記

寺田寅彦記念館友の会 編集部

### 「火事教育」の掲載にあたって

このたびの総会の教育長挨拶に「津波と人間」の中から、「災害予防には教育が最も有効」ということを引用されていたので、下記にその部分を掲載します。

「人間の科学は人間に未来の知識を授ける。この点はたしかに人間と昆虫とでちがうようである。それで日本国民のこれら災害に関する科学知識の水準をずっと高めることが出来れば、その時にはじめて天災の予防が可能になるであろうと思われる。この水準を高めるには何よりも先ず、普通教育で、もっと立入った地震津浪の知識を授ける必要がある。英独仏などの科学国の普通教育の教材にはそんなものはないと云う人があるかもしれないが、それは彼地には大地震大津浪が稀なためである。熱帯の住民が裸体《はだか》で暮しているからと云って寒い国の人がある真似をする謂《い》われはないのである。それで日本のような、世界的に有名な地震国の小学校では少なくとも毎年一回ずつ一時間や二時間くらい地震津浪に関する特別講演があっても決して不思議はないであろうと思われる。地震津浪の災害を予防するのはやはり学校で教える「愛国」の精神の具体的な発現方法の中でも最も手近で最も有効なものの一つであろうと思われるのである。(昭和八年五月)」

そこで、その数か月前に寺田寅彦が「火事教育」という随筆を発表しているので、その一部を掲載することにしました。

### 「銀座アルプス」にでてくる南イングランド、パークシャーの Reading」について

会員の田原氏から、「榭」67号を読まれて後のメールでいただいたものです。是非、会員に読んでいただくことがよいのではないかとということで掲載することにしました。

### 「寺田寅彦の全集未収録と思われる毛筆の書簡」について

四宮氏からは、貴重な「寺田寅彦の全集未収録と思われる毛筆の書簡」を提示していただきました。新たな寺田寅彦の研究が進むことを期待するものです。

### 「寅彦を巡る旅 越後人・土佐へ行く」について

会員佐藤氏に投稿をお願いしました。佐藤氏は、2年連続寺田寅彦記念館友の会の総会に新潟から遠路の参加、今年も懇親会に加わっていただきました。その際に、寺田寅彦への想いをお聞きしましたので、そのことなどについて執筆をしていただきました。

次号では、7回忌を迎えられます寺田寅彦の次女関弥生様の特集を考えております。ご投稿をお願いいたします。